

# 世界デフテニス選手権で3個のメダル

## 団体・ダブルスで金 シングルスで銅 鈴木 梨子さん(文3)

### 目標は25年東京デフリンピック



3個のメダルを手に笑顔の鈴木さん 撮影・河上さん

聴覚障がい者の国際テニス大会「第3回世界デフテニス選手権・チーム選手権」が9月23日～10月7日、ギリシャで開催され、日本代表の鈴木梨子さん(文3)が女子団体戦で金メダル、個人戦(女子)のダブルスで金メダル、シングルスで銅メダルを獲得した。

鈴木さんは「次につながる大会となった。目標の全種目のメダル獲得はならなかったが、多種多様なボールを打つ自分のテニスは海外選手にも通用すると感じ、自信になった」と振り返った。

鈴木さんは感音性難聴という聴覚障がいがあり、「音はするが、何と言っているかわからない」と聞き分けに苦労している。デフテニスは聴覚障がい者が補聴器を外して行う。打球音や周囲の音が聞こえず、視覚だけで瞬時に判断して動く必要がある、高い技術が求められる。耳が聞こえないアスリートの世界大会「デフリンピック」の一種目でもある。

小2でテニスに出会い、中3でデフテニスを始めた。初めは興味本位だったと話す。が、「デフテニスがなかったらテニスをここまで続けていないし、普段の生活に自信を持って過ごすことができていないと思う」と、競技がかけがえのないものになっていることを明かした。

昨年、デフリンピックの日本代表に内定したが、新型コロナウイルス感染症の大流行により日本ろう者テニス協会に派遣を中止。鈴木さんにとってダブルスで金メダルを獲得した前回大会(2019年)以来の国際大会出場となり、国内ではライバルの選手たちと協力し合い、見事栄冠を手にした。



写真提供(2枚) 日本ろう者テニス協会

25年に東京で開催されるデフリンピック出場を視野に入れている。大切にしているのは「聴者(聴覚障がいがない人)の大会で良い結果を残すこと」。体育会テニス部に所属しており、今年はいんかレにも出場した。「来年はシングル、ダブルスともにいんかレ本戦出場を目標に、気持ちを新たに頑張りたい」と意気込む。まだまだ鈴木さんは飛躍を遂げていく。

(河上明来海さん・文3、専大スポーツ編集部)

力強いストロークでゲームをコントロールした

## 地域とともに

### 文・齋藤ゼミ 川崎市スポーツフェスタに協力

10月9日、川崎市で開催された「川崎市スポーツフェスタ2023」に、文学部ジャーナリズム学科の齋藤ゼミが協力した。齋藤ゼミは、来場した親子向けにオリジナルポ



丁寧に来場者に対応するゼミ生たち

スターを制作してプレゼントするブースを出展。市内に本拠地を置くプロスポーツチームのユニホームを着て記念撮影ができるフォトスポットも用意した。ポスターは、スポーツ雑誌風の紙面に、ゼミ生が考案したキャッチコピーをレイアウトしたオリジナル。15種類のサンプルの中から好きな図柄を選んでもらい、参加者から提供された写真をその場で取り込んで印刷した。自分の写真が写真になったポスターを手にした親子は、「かっこいい」「本格的な仕上がりで驚いた」と笑顔で持ち帰っていた。

齋藤ゼミには体育会の学生も多く在籍。フェンシング部所属の嶋田愛音さん(3年次)は、「純粋な気持ちでスポーツを楽しむ子どもたちの姿に触れて、競技へのモチベーションが高まった。今後こうしたイベントに参加し、地域の方と交流したい」と話した。

力発見スタンプラリー」をサテライトキャンパスにて開催します。オンライン企業研究ゼミナーや支援プログラム等の詳細は、in Campusにて確認してください。

## 食料支援プロジェクト

本年度3回目となる食料支援プロジェクトが、10月26日、生田・神田の両キャンパスで行われた。パックご飯やレトルト食品、菓子などを提供する。全学で1000人分の食料が提供された。



同プロジェクトは、校友会や育友会などの協力を受け、物価高騰の影響で経済的に困窮する学生をサポートすることを目的として実施。今年度は9回目となり、延べ8139人に無償支援を行ってきた。次回の実施は12月を予定している。

## 就職だより

3年次生へ就職活動本番に向けた準備を進めているかと思いますが、さまざまな角度からのご意見を頂くことが重要です。現在行っている就職活動準備講座を受講することで、自身の進路を明確にすることもできますので、必ず受講してください。

また、11月13日からはオンライン企業研究ゼミがスタートしました。業界を牽引するリーダーが活躍する企業などが参加し、秋・冬のインターシップやオープンカンパニーについての有益な情報も得ることが出来ます。このほか、企業研究の一環として、11月20日(月)に「中小企業魅

「4年次生へ11月20日(月)に「かながわJobway企業説明会」を、12月中旬には「模擬面接指導・IT企業合同企業説明会」を開催します。場所は、いずれもサテライトキャンパスです。時間の詳細はin Campusにて確認してください。申し込み不要です。この機会をぜひ活用してください。

また、進路決定者は、「進路届」を就職支援システムS-netもしくはキャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。

## 専修人の新しい本



野口武悟 著

読書バリアフリーの世界 19年に制定された。本書では、まず、前述したような動向を概観する。そのうえで、バリアフリー図書のうち普及が進む大活字本と、普及しつつある電子書籍に注目し、読書バリアフリーに果たす可能性を述べる。7月に「ハンチバック」で芥川賞を受賞した市川沙央さんが健常者中心の読書環境の問題点を鋭く指摘し、読書バリアフリーへの関心が高まっている。読書から「誰一人取り残さない」環境づくりが急務だ。(三和書籍・税込2200円)

著者(のぐち・たけのり) 文学部教授。図書館情報学。『本の飢餓』解消に向け、「読書バリアフリー法」が20



有機給食スタートブック 考え方・全国の事例・Q&A

有機給食スタートブックをも真ん中に置いた取り組みが「地域を元気に」してきたし、つつある。そうした有機給食の可能性、地域農業・地域社会との関係をふまえ、長い伝統を持つ所から比較的新しい所まで全国10の事例を紹介した。実現に関わるハードルの越え方は、Q&Aで解説し、海外の事例やブックガイド、関連サイトも掲載した。

本書は、有機給食(オーガニック給食)に関心がある、始めたい、という読者を念頭に作られた。鶴は農村社会学(谷口(秋田県立大学教授)は環境社会学を専門とする。日本有機農業学会の公開シンポジウムが契機となり、農文協の企画で誕生した一般書である。

今、有機給食への注目度が高まっている。子ども学。